

機関番号：13101
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2008年度～2010年度
 課題番号：20791734
 研究課題名（和文） 母体搬送となった女性の搬送前後のストレス要因と看護ケアの
 取り組みについての検討
 研究課題名（英文） An examination of stressors before and after transport
 in maternal transport cases and nursing care initiatives
 研究代表者 西方真弓（MAYUMI NISHIKATA）
 新潟大学・医歯学系・助教
 研究者番号：90405051

研究成果の概要（和文）：

本研究は、母体搬送となった当事者の立場から搬送前後のストレス要因と搬送によって生ずる課題を明らかにすることを目的にインタビュー調査を行った。研究結果から、母体搬送となった女性は、想定外の事態が起こったために自分のおかれた状況を把握できず困惑、混乱、不安状態にあり、当事者の心情を察した支援の必要性が示唆された。さらに、助産師の緊急場面における対応能力・調整能力が求められていることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

Interviews were carried out in this study with the purpose of clarifying the stressors before and after transport from the perspective of those involved in maternal transport cases as well as the problems caused by transport. Patients in maternal transport cases often become troubled, confused, anxious and unable to comprehend their situation due to the occurrence of unexpected events and a need for assistance from a person who can understand their feelings is suggested from the results of this study. Furthermore, this study also clarified the requirement for midwives to be capable of responding and adjusting in emergency situations.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	1200,000	360,000	1560,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：助産師・周産期・母体搬送・助産師・助産学

1. 研究開始当初の背景

周産期母子医療センターの整備に伴い、リスクの高い妊産婦や胎児の救命をはかるために母体ごと周産期医療機関に移送し、小児科医師の立会いのもと分娩に至るという母体搬送が増加傾向にある。母体搬送は、妊産婦と胎児の2つの生命が危険にさらされるために、緊急性を要すケースが多い。そのため、妊産婦とその家族は、医療者から現状と搬送の必要性を説明されたときから緊迫した状況に身を置くことになる。一方、搬送をする側、搬送を受け入れる側の医療者にとっても母体搬送は、迅速な対応が求められる緊迫した状況にある。特に搬送前後は、母体や胎児の状態を見極め、早急な診断が必要とされ、さまざまな医療スタッフが同時に、妊産婦を取り囲み、検査や処置に負われてしまいがちである。そのため、ともすれば母体搬送の現場は、母児の救命が優先され、当事者である妊産婦の不安への対応が二の次になってしまう傾向があると推察できる。

国内外の先行研究から、搬送という緊迫した状況に身を置く妊産婦は、搬送を衝撃的な出来事と捉え、情緒的な混乱をきたしていることが明らかになった。そのような、情緒的な混乱状況の中でありながら、妊産婦や家族は、搬送に伴い、施設の移動や顔なじみのスタッフから初対面の医療スタッフの変更が余儀なくされ、納得できないまま思い描いていた出産とは異なる状況になってしまう。また、検査や処置に多くの医療スタッフが携わることによる心理的な圧迫もあると推察される。

そこで、母体搬送となる妊産婦の立場から、情緒的な混乱をきたす搬送前後のストレス要因と、それに伴って生ずる課題について明らかにする必要があると考えた。また、そこ

から、母体搬送となった妊産婦に対する看護ケアの取り組みについて検討の必要性があると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、搬送となる当事者の立場から、搬送前後のストレス要因と搬送によって生ずる課題を明らかにすること、さらに、母体搬送となった女性への支援的アプローチについて検討することである。

3. 研究の方法

調査に先立ち、周産期医療、特に母体搬送の現状を把握するために、2008年に総合周産期母子医療センター1施設、地域母子周産期医療センター1施設の視察を行った。搬送件数、搬送の受け入れ地域、搬送理由、搬送の受け入れができなかった理由等について説明を受けた。また、搬送において施設間の連携、施設内の産科部門と新生児部門の連携の必要性、迅速な情報伝達、情報の共有について課題・問題点があることについても説明を受けた。

【調査1】

母体搬送を受け入れている周産期施設の看護職側から搬送によって生ずる問題点や課題を明らかにするために、3施設の看護職10名を対象に半構造化面接による聞き取り調査を2009年1月～4月に実施した。対象者の語りから、母体搬送時や搬送となった女性に関わる際に生じる困難感とその克服に着目し、語られた体験とその意味内容を捉え、質的帰納的に分析を行った。

倫理的配慮として、研究者の所属機関にある倫理審査委員会の審査を受け、承諾後、実施した。また、対象者には、調査の趣旨と目的、調査参加における自由意志の尊重、守秘

義務、個人情報保護と管理について書面と口頭で説明を行い、同意を得た。

【調査 2】

母体搬送となった当事者の語りから搬送によって生ずるストレス要因を明らかにするために、搬送となり出産に至った女性 6 名を対象に半構造化面接による聞き取り調査を 2010 年 9 月～2011 年 1 月に実施した。対象者の語りから、母体搬送となった妊産婦の搬送前後のストレス要因を、質的帰納的に分析を行った。

倫理的配慮として、研究者の所属機関にある倫理審査委員会の審査を受け、承諾後、実施した。さらに、調査協力施設の倫理審査委員会の承諾を得たのち、対象者には、調査の趣旨と目的、調査参加における自由意志の尊重、守秘義務、個人情報保護と管理について書面と口頭で説明を行い、同意を得た。

4. 研究成果

【調査 1】

周産期施設の看護職側から搬送によって生ずる問題点や課題点を分析した結果、＜緊急性・救急性を優先するために生じるもどかしさ＞＜今回の出産の意味づけに向けた支援の難しさ＞＜準備が整わないまま入院を迎え入れる緊張感＞＜医師・他部門との協働によるジレンマ＞＜教育的策を講じてこなかったことへの後悔＞の 5 つのカテゴリーが抽出された。また、搬送に伴う困難さを克服するために＜当事者の心情を思いやる意図的なアプローチ＞＜全体を見渡しコーディネートする能力の修得＞＜周産期医療に携わる医療者としての気概＞＜搬送受け入れ体制のシステム化＞などの対応が挙げられた。困難さは、緊急性が高く突発的に起こる母体搬送ゆえに生じる課題であり、助産師の緊急場面での対応能力・調整能力が求められ

ていることに関係していた。困難さの克服に向け、搬送先・チーム内の連携強化、調整能力の向上、指導体制づくりの必要性が示唆された。

【調査 2】

当事者である女性が搬送によって生ずるストレス要因としては、予想と異なる展開、今までの経過と異なった状況から＜想定外の事態となったことへの戸惑い＞、先行きが見えないこと、状況把握できないことから＜状況把握できないことに対し募る不安＞、医療者のペースで処置や検査がすすむ圧迫感や搬送前後、産科医と児の入院した NICU における説明の食い違い、不十分な説明による＜医療者の言動の不一致による混乱＞、身を委ねるしかない状況から＜何もできずに状況を受け入れるしかない歯がゆさ＞、＜逸脱症状を見落としていた自分への自己嫌悪＞の 5 つのカテゴリーが抽出された。突如、母体搬送という緊急性の高い状況に身を置き、自分と児の状態がつかめないまま刻々と変化する状況の中で心身共に大きなストレスを感じている様相が浮き彫りとなった。

調査 1.2 より、思いがけず母体搬送となり情緒的に混乱をきたしている当事者の心情を察した対応が搬送前後の支援として求められるており、そのためには、緊急性の高い場面でも十分な情報提供を行い、当事者である女性が自分と子どものために最善の選択をしたと思える支援が必要である。場合によっては、あまりに緊急性・救急性が高いために搬送直後には行えない支援もあると予想されるが、その際は、状況を見て、継続的に支援していくことも必要であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 1 件)

1. 西方真弓, 大野とも子: 母体搬送時や搬送となった女性に関わる際に助産師が体験する困難さ, 第 51 回日本母性衛生学会, 石川県立音楽堂, 2010 年 11 月 5 日 (石川県金沢市)

(第 52 回日本母性衛生学会 (2011 年) にて発表予定で, 現在抄録を提出している段階である。)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西方真弓 (MAYUMI NISHIKATA)

新潟大学・医歯学系・助教

研究者番号: 90405051

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: